



蓮の高田本山（8月初旬）



発行所
真宗高田派宗務院
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



「お参りしてよかった」と言われる本山

宗務総長 安藤 光淵

この度の総長選挙によって、真宗高田派宗務総長に就任いたしました。

本山専修寺の建築伽藍は昨年八月、新たに十一棟が重要文化財に指定されました。所有する主要な建物がほとんど指定された形となり、ほこりある本山の伽藍が東海一の大本山として認められたものと思います。

七百五十回忌の法要を期に修理の行きとどいた建築群が重要文化財に指定されたことは何となくうれしく、また参詣コースとして皆さんに見えていただく

ことを心待ちにしています。

時代や社会が変化しても変わらないものがこの歴史でありましょう。念仏の教えも同様であり、変わらないものですが、その伝え方は時代の変化に合わせて、変わっていかねばならない部分があります。現代という時代に対応して、念仏の教えが人生のほんとうの拠り所になるように、皆さんに伝えていかねばならない役目があります。

先日、得度式があり、賜春館（重要文化財）で度諱が渡され、十七名の僧侶が誕生しました。

親鸞聖人が九才で得度されたことにちなんで、九才になると得度式を受けることができます。そのあいさつに、一に上手にお経が読めるようにと申しました。檀家にしたわれる僧侶になるこ

とが目標でしょうが、第一歩をしっかりと踏みこんでいくことです。念仏の教えをひろめることも、まずは念仏を申すことが大切なのではないかと思っています。

山門から御影堂に上がり、御開山のお姿を拝していますと、建物の大きさを忘れてしまうほど心を打たれることがあります。

三百年以上前に棟梁たちがどうしてこんな大きな建物を造ったんだろうと、創建時の人々の智慧に感心するばかりです。

「お参りしてよかった」と喜んでいただける本山でありたいと願っています。



6月に発足した新内局。安藤光淵宗務総長(中央)、藤森邦夫総務(右)、鈴木紀生総務(左)。

第二回目

三尊さまってなんだろう？

親鸞聖人にとっての

三尊さまとは

三尊さまとは、阿弥陀さま、観音さま、勢至さまです。阿弥陀さまは、その慈悲と智慧のお心によってこの私をお救いくださる仏さまです。そして、観音さまは阿弥陀さまの慈悲を、勢至さまは阿弥陀さまの智慧を、この私に届けてくださる菩薩さまです。

この三尊さまに手を合わせておられたのが親鸞聖人ですが、そのお心はどのようなものだったのでしょうか。

親鸞聖人のご生涯で大切な節目の一つが、二十九歳の六角堂でした。比叡山での二十年間のご修行に行き詰まり、山を降り京都の六角堂で救世観音菩薩に手を合わせておられました。すると九十五日目の明け方、聖徳太子が現れてお



言葉をお示しくくださったのでした。そしてすぐに六角堂を出て、法然上人のもとへ行かれました。後に

聖人は「聖徳太子は救世観音にておわします」「この和国に仏教のともしびをつたえおわします」と書かれています。

法然上人のお導きで阿弥陀さまのお救いを確信された聖人にとって、六角堂で聖徳太子となつて現れてくださった観音さまは、迷える聖人を見捨てることなく受け止め、あなたが救われる仏の教えが必ずあります、という阿弥陀さまのお慈悲のお心そのものだったのでしょう。

また親鸞聖人は、「源空勢至と示現し、あるいは弥陀と顕現す」と言われています。聖人にとって阿弥陀さまの慈悲と智慧を説き示してくださった源空上人つまり法然上人は、聖人の前に現れてくださった阿弥陀さまであつたのでした。

親鸞聖人は「南無阿弥陀仏」となれば、観音勢至はもとに恒沙塵数の菩薩とかけのごとくにみにそえり」と仰っています。聖人は三尊さまの前で手を合わされ、お念仏を申される中で、聖徳太子や法然上人はもちろんのこと、生死の間に阿弥陀さまの光を届けてくださった方々が憶念されたことでしょう。

随願寺住職 松山 智道

三尊さま出開帳続々と

六月八日 浄蓮寺

(三重県津市雲出本郷町)

梅雨空の中、当寺の出開帳日は快晴。当、実行委員会は事前に周辺一帯にポスターを掲示、地域戸別にパンフの配布で開帳の周知に努めた。当日は臨時駐車場の開設、足のない高齢者向けのマイクロバスでの参詣送迎など、実行委員の奉仕によって多くの参詣者で本堂が埋まり、内陣参

今年中に予定されている
三尊さまの出開帳

平成二十六年十月二十六日

法雲寺

(三重県鈴鹿市大久保町)

平成二十六年十一月一日

澄泉寺

(東京都港区赤坂二丁目)

平成二十六年十一月七〜九日

永徳寺

(岐阜県安八郡神戸町横井)

平成二十六年十二月三日

満願寺

(三重県津市河芸町一色)

平成二十六年十二月七日

永福寺

(東京都府中市多磨町二丁目)

お近くの方はぜひ参拝のご縁をお結びください。

拝は大混雑。用意した供物「紅白饅頭」五百個は午前中で配布。

高田派の若い僧侶によるマンドリンと歌のある法話は趣向がきわだった。地元新聞三重タイムスで開帳が報道され、当寺の境内・本堂は終日賑わった。

実行委員長 長尾 俊一



高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田 潤

京都市下京区堀川通新花屋町角 (西本願寺前)
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

緑 と 共 に 80 年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山 本 進一郎

津市栄真小川町 869-77
TEL 059-232-7453
FAX 059-232-7453



ホーオーが目印！

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

傳燈奉告法会

平成二十八年三月二十五日より三日間

御巡教次々と

御巡教を受けて

平成二十六年五月十七日（土）、新法主殿の御巡教を三重県第十五組がお受けしました。第一組に続く二番目のことでしたが、住職十六名、

総代四十一名、法善寺檀信徒二十八名が拙寺の御堂に集まり、「重誓偈」の勤行後、御教示を拝聴しました。ある檀信徒は「法主殿は、今の世は色々な意味で決して良いと言えないが、お念仏の力をいただいて乗り越えていくことが願われているとおっしゃられたように思います」と感想を述べていました。拙寺は、三代の法主殿をそれぞれ三代の住職が迎え、という光栄なご縁に遇わせていただいたことでした。

法善寺住職 服部義雲



進納所の受付を再開しました

懇志受付が進納所と総合案内所の二カ所になり、さらに便利になりました。分からないことがあれば何でもお尋ね下さい。みなさまのご参詣をお待ちしています。

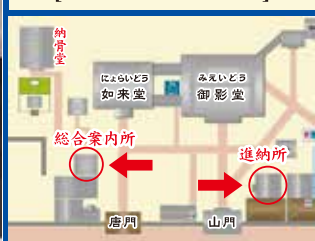


進納所（重要文化財）



総合案内所

〔高田本山境内図〕



納骨受付・納骨堂読経受付は総合案内所のみにあります。

総合案内所／進納所

TEL : 059 (232) 7234
TEL : 059 (236) 5701

お七夜献書展 作品募集

課題	
幼稚園	いけ
小学一年生	はす
小学二年生	みち
小学三年生	ひかり
小学四年生	不思議
小学五年生	十方無量
小学六年生	至心信樂
中学一年生	広開浄土門
中学二年生	清浄解脱三昧
中学三年生	五劫思惟之撰受
高校・一般	我当泥洹 度脱一切

釈迦の教法のおかげで
天親菩薩はねんごろに
煩惱成就のわれらには
弥陀の弘誓をすすめしむ

【作品の受付先／お問い合わせ先】
・送付または持参して下さい。
・〒五一四一〇一四
・津市一身田町二八一九番地
・高田本山宗務院教学部
・お七夜献書展係
・電話 〇五九一二三二一四一七一
・提出期限 平成二十六年十一月三十日（日）
・出品料 一点につき三百円です。

七高僧シリーズ⑨

善導大師(下)

親鸞聖人は『浄土高僧和讃』において浄土門における

七人の先覚、先達をあげ、その功績、功德をたたえられました。そのうち善導大師には二十六首をあてておられますが、その第十二首において、

煩惱具足と信知して

本願力に乗ずれば

すなわち機身すてはてて

法性常樂証せしむ

と讃嘆しておられます。

その趣旨は、「自己があらゆる欲望を悉くそなえた凡夫であると深く感じ知って、弥陀の本願のお力におまかせすると、即座にこのけがれた肉体を捨てきって涅槃のさと

に至らしめられる」というものであります。

これは真宗の教えの要である信心について、善導大師が二種深信（機の深信と法の深信）として、私と阿弥陀如来の真実のすがたを明確に説き示されたところであります。

この大意は、
「一つには、私という人間は本当に罪深く、迷い続けるものであり、到底自力の修行によつては悟りを開くことのない身であると深く信じる「機の深信」、二つには、お救いいただく阿弥陀仏の本願に疑いや分別を捨てておまかせし、迷い苦しむ私を必ず救い導いて浄土に往生させてくださることを深く信じる「法の深信」、」

というところにあります。

親鸞聖人は、「凡夫というは

絹本着色善導大師像（専修寺蔵）
合掌し念仏を唱える大師の口から阿弥陀仏が生じる場面が描かれている



無明煩惱、われらが身にみちみちて、欲もおおく、いかりはらだち、そねみ、ねたむところおおくひまなくして、臨終の一念にいたるまで、とどまらず、きえず、たえず、」
とくわしく凡夫というものの心の千変万化をお示しくださしました。（『二念多念文意』）
阿弥陀如来を信じることと自分を煩惱具足の凡夫と知ることとは別々のことではなくて、同じ一つのこと、つまりこの二つは同時のことであつて、阿弥陀如来に助けていただく私だということを知らされて、初めて絶望の私であつたということがわかる、また、絶望の私だということが知らされて、初めて阿弥陀如来に助けていただくのだということもわかるのだということを明らかにされたのが善導大師です。
このように、目覚め気付かせていただくのが真実信心の獲得であり、往生の決定であると親鸞聖人も説き示しておられます。

（第三部会）

世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身町田2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭 安川如風

御本山絵所

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具で修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

http://www.kobori.co.jp/

本店／京都市下京区烏丸通正面面上 〆(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから ☎(本店) 0120-27-9595 (受付時間9:00~18:00)



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念碑
燈籠



高級御影石専門店

御影石材株式会社

(石に御用の方は)

☎0120-142540

本店

津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式

会社

ISHISEN

ストーンズ

石仙

(旧(有)山本石材店)

☎0120-67-4114

四日市市近鉄阿倉川駅前 ☎059-331-4114

こんな行事ありました

おとなから子どもまで学びの夏

第88回仏教文化講座

8月1日～5日まで、毎年恒例の文化講座が開講されました。法主殿の御親講にはじまり、連日60名を超える聴講者が講座を熱心に聴講いたしました。ご講師の皆様には大変充実した講演を有難うございました。



歴史まるごと体験塾

8月6日～8日まで、高田本山と寺内町を舞台に歴史まるごと体験塾が開催されました。小学5・6年生を対象に、45人の子どもたちが2泊3日で朝のおまいり、御堂の畳拭き、寺内町見学、まんじゅうやこんにゃく作り体験をしました。高田高校の仏青部のサポートもあり充実した体験塾となりました。



仏教基礎講座

8月18日～22日まで、高田派僧侶の教師検定講習をかねた基礎講座が、高田短期大学仏教教育研究センター主催で開催されました。地域の方を含む約40名の受講者が仏教の見識を深めました。



災害お見舞い申し上げます。

力を合わせて

各地で自然災害が続いていますが、災害の大小に関わらず尊い命が失われることもあります。災害へは、まず備えが大切。物質的な備え、避難路の確認、自分の身には起こりえないという過信をしないこと。

しかし、起こってしまった災害には皆で協力して立ち向かうことが大切でしょう。ひとりひとりの力は小さくても、力を合わせることで大きな力を出すことが出来るのです。

高田派の寺院にも被害がありました。



三重県津市一志町 浄泉寺
8/9の大雨でお寺の土手が崩れました。



三重県津市一志町 浄福寺
8/24本堂の屋根に落雷がありました。

600
8342
京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
電話 0755-33711・66531
FAX 0755-33711・90331
振替 01020511490331

内容 影印 運上人書写本翻刻及び校異
解説 古写本・刊本・講義録目録
本体27000円＋税

矢田了章・林智康 監修
歎異抄影印集成

仏と人57
本体3900円＋税

無名会同人編

中山彰信著
教行信証の研究
本書は親鸞聖人が『教行信証』を撰わ
されるにつれて、如何なる問題を考慮
され浄土の真实性・普遍性を追求され
ていたかを考察するものである。
本体8200円＋税

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

納骨堂法会のご案内

平成26年11月3日・4日 行列（納骨堂勤行）午前10時30分 御影堂勤行 午前11時30分

本山への納骨をご縁とした、本山あげての法会です。
本山納骨にご縁のある方はどうぞおまいり下さい。

11月3日と4日の両日の法会は、大勢の僧侶の行列にて始まります。行列は午前10時30分に如来堂より出発し、途中御廟に立ち寄られてのち、納骨堂へ到着後、仏間にてお勤めがございます。納骨堂からの帰路には第二納骨堂に立ち寄られ、引き続き御影堂にてお勤めとお説教がございます。納骨堂法会の中心はこの御影堂でのお勤めになりますので、ご参詣の方は御影堂でのお勤めとお説教を聴聞して、縁を深めていただきたいと思います。

当日は大変混雑致しますので、係員の指示に従って下さい。また、お車でお越しの場合、臨時駐車場をご利用下さい。

※法会中、行列の時間には参道の通行止め及び読経を中断いたしますので、ご協力をお願い致します。



納骨堂開堂時間 午前9時～午後4時

これからの本山諸法会

みなさまご参詣下さい

◆讃佛会 九月二十日～二十六日

み仏のお徳を称え、ご先祖の恩に謝し、いただいた法縁を喜ぶ仏徳讃嘆の法会です。他宗では彼岸会と呼ばれておりますが、真宗では讃佛会と申しております。

彼岸の入りより七日間、朝七時からと、昼十一時三十分からの二回、勤行とお説教が勤まります。二十三日には法主殿の御親教が行われ、共にご法縁を喜ばれます。

晨 朝 午前七時より
お日中 午前十一時三十分より

◆資堂講法会 十月一日～三日

資堂講は普く有縁の方々が加入できる講として設けられたものです。法会は御影堂に於いて十月一日より三日間、お日中に講加入者の法名記載の過去帳を中央卓に置いて勤められます。

この法会へのご懇志は、本山の十三棟の重要文化財を含む堂宇を護持し、次の世代に受け継いでいく為に使わせていただきます。

お日中 午前十一時三十分より

◆秋法会 十一月五日～十日

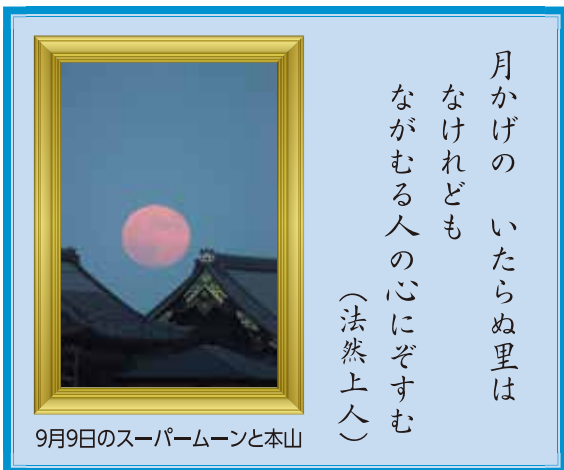
納骨堂法会に続き秋の千部法会が勤まります。進納所にて千部講に加入いただいた方の法会です。前三日間は新加入の方、後三日間は昨年までに加入された方の法会が御影堂にて勤められます。

お日中 午前十一時三十分より

◆中興上人御正當 十二月八日～十日

高田派中興の祖である第十世眞慧上人は、一五二二年十二月十日に御往生されました。高田派の興隆を成し遂げられた功績を偲んで御影堂にて法会が勤まります。

お日中 午前十一時三十分より



9月9日のスーパームーンと本山

月かげの いたらぬ里は
なけれども
ながむる人の心にぞすむ
(法然上人)

これからの本山諸行事

みなさまへ参詣下さい

中興真慧上人五百年忌法会
平成二十八年四月に勤修

真慧上人ってどのような人だったのでしょうか。

高田派の中興の祖
について学ぶ研修会を
開催します。



◆第三十四回坊守・婦人会合同研修会

十月二十一日

毎年恒例、坊守会と婦人連合会の
一泊二日合同研修会です。

一日目 十時 開会式

午前
法話

高田高校教諭 藤田正知先生(ゆかり)

午後 小旅行（真慧上人所縁の地を訪ねる）高田会館で宿泊

二日目 七時 両御堂参拝

十時 法話

高田短大特任教授 金信昌樹先生

※参加はご婦人に限ります。

◆第五十九回檀信徒研修会

十月二十八日

午前九時から御影堂前にて受付
全国の高田派お同行を対象にした
研修会です。

九時三十分 開会式

講演 高田派鑑学 清水谷正尊先生

※どなたでも参加できます。

お申し込みは宗務院教学部まで。

◆三重県仏教保育協会合同参拝

九月二十一日 午前十時から式典

午後一時から風船上げ

県内の真宗系仏教保育園約二十園の園児が高田本山へおまいりに来ます。式典は仏の子たちの献花・献灯・献香からはじまり、讃仏歌を皆でうたいます。

◆ 教学院研究発表大会

十月三十一日 午前十時開會

高田派教学院の研究員とご応募いただいた僧侶が日頃の研究の成果を発表します。又午後には佐々木裕子氏をお招きして特別講演も行われます。

高田本山だより since 1986

祝100号

次号（12月）は記念号となります。
購読申込みは宗務院教学部まで

第1回 高田本山と一身田寺内町フォトコンテスト

平成26年4月、親鸞聖人直拝の『一光三尊佛』を17年ぶりに本山へお迎えし、盛大に法会が執り行われました。その『一光三尊佛』を安置する本山は、「花の咲く寺」として、桜をはじめ、木蓮、藤、牡丹などが咲き誇り、梅雨から夏にかけての季節には浄土の象徴である「ハス」が境内を鮮やかに彩ります。これらの四季折々の景観、いにしえからの仏教建築、一身田の町並みやそこに暮らす人々とのふれあい、高田本山、寺内町でのイベントなど、あなたの感性で切り取ってみてはいかがでしょうか。

募集内容：「四季の風景と寺内町」

高田本山専修寺の季節の風景や寺内町の人とのふれあいなど
※平成26年1月1日～平成27年1月16日の期間に撮影された作品

入賞・入選：最優秀賞 1点 50,000円 優秀賞 2点 30,000円
入選 4点 10,000円 佳作 8点 5,000円

応募締切：平成27年1月31日（土）

応募資格：プロ、アマを問いません

応募方法・規定：ひとり10点までA4サイズのプリント作品（フォト用紙でのインクジェットプリント可）
組写真は不可 未発表のもの
（詳しくはフォトコンテスト応募用紙または高田本山ホームページをご覧ください）

※著作権は応募者に帰属しますが、使用权は主催者が有し、優先的に全ての媒体に使用する権利を保有します。
 ※被写体の肖像権は、全ての人物や特定の造形物を撮影する場合に発生しますので、事前に対象者に承諾を得てください。

送付先・お問い合わせ 〒514-0014 津市一身田2819 TEL**059-232-4171**
真宗高田派本山専修寺 フォトコンテスト係 担当：藤谷
<http://www.senjuji.or.jp/photocon/index.php>





安芸郡黒田村の随宏寺の檀家で、彦兵衛という八十歳をこえた老人が

いました。両眼ともに三年前から失明していましたが、自分の子も方々にいたのですが、外出は一切しませんでした。しかし、今回の三尊さまのご開帳を拝観できないのは何としても悲しいと、息子の五兵衛に言いましたので、親孝行な五兵衛は、竹の輿に乗せて参拝させることにしました。本堂へ来ると内陣まで手を引いてやり、

「さあお父さん、ここが三尊さまのお前ですよ。目は見えなくても心の目を開いてよく拝んでください。」と声をかけました。彦兵衛は大変よろこんで、しばらくの間、身体を折りまげて拝んでいました。

拝みながら彦兵衛は思いました。

「わしも三年前であればこの尊いお姿をじきじきに拝めたものを、失明したのが何としてもくやしい。けれど、どんな者でも洩らさず救ってやろうとの阿弥陀さまのご本願をいただくからは、今に浄土に生れて佛さまのお顔を拝むことができれば。どうか、この私をお洩らしくくださいませんかように……。」

失明の悲しみと、ご縁にあった喜びとがいつしよになって、とめどなく涙があふれて来ます。その涙を手でぬぐいぬぐい、つとふり仰ぐと、

三尊さまの気高いお姿があざやかにお立ちになっているのです。「さては、三尊さまを尊く思う自分の気持ちが佛さまに通じて、この盲目の身にまで見えてくださるのか。本当に生き佛さまじゃ。」と、どつと胸がこみ上げてさらに目をこらしてみると、内陣の莊嚴・お供え物の様子・ごった返す人々のありさまなど、周囲のものが失明以前にもまさってはつきりと見えるではありませんか。

か。これは、三尊佛のお力で本当に目を開けていただいたのだとわかると、余りの尊さにしばらくは肝もつぶれる思いでした。

この三尊さまのお恵みの深さを思えば、とても乗物などには乗れないと、早速竹の輿を返して、帰りは歩いて三年の間行かなかった子供たちの家々にも立ち寄り、佛さまのお力の広大さを悦び合うのでした。そしてその後は、何回となく歩いて参詣したとのことです。

(『三尊さまむかしばなし』より掲載)



寺院名

檀信徒研修会

テーマ「真慧上人」

平成26年
10月28日(火)

◆午前 法話

(青巖寺住職 清水谷正尊師)

午前9時 受付～午後3時 閉会

一光三尊佛これからの御開扉

①御開扉期間 平成27年4月3日～5月28日

中開帳 平成27年4月3日～16日 特別御開扉 平成27年4月17日～5月28日
三重県立博物館 (MieMu) 親鸞とその法脈－高田本山の至宝－展
平成27年3月21日～5月10日

②御開扉期間 平成28年3月25日～30日

傳燈奉告法会 平成28年3月25日～27日 御帰山法会 平成28年3月28日～30日

真宗高田派本山 専修寺

三重県津市一身田町2819 TEL 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山

検索